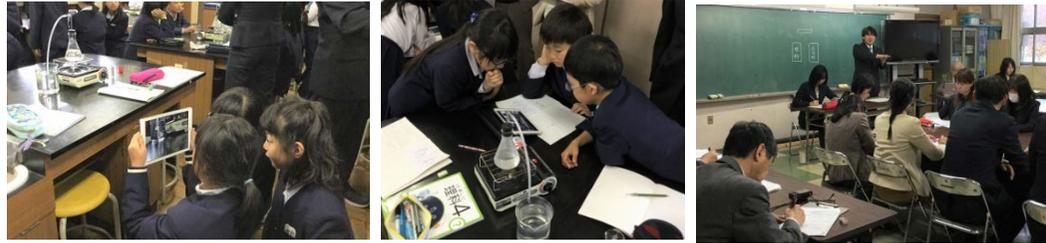


◆2017年度助成校・団体の活動紹介

2018年11月～12月に訪問した学校・団体の実践を紹介します。

福島県 福島市立三河台小学校



「オープン研修会」では、第4学年理科『水のすがたと温度』(写真左・中)と第1学年生活科『あきのたからものとなかよし大作戦!』が公開された。理科は、沸騰した水から出てくる大きな泡の正体は空気か水かを予想した後、実験を通して泡の正体を調べる授業であった。生活科は、自分たちで集めてきた秋の自然物を使って遊び、遊びを作り出すおもしろさに気づかせるというものであった。写真右は事後研究協議会の様子。

栃木県小学校研究会宇都宮支部理科支部部会



理科指導法研究会における第3学年「電気の通り道」の授業風景。ケーキのろうそくに見立てたオリジナル教具を使って、「誕生ケーキに明かりを点けよう」と、子供たちの興味と課題意識をうまく引き出した。色々な素材(金属やプラスチック、紙...)をつなぐ実験で得た知識を使って、ケーキに火をともし課題解決に挑む。

神奈川県 平塚市立神田小学校



第3学年『太陽の光をしらべよう』は、太陽の光でペットボトルの水を温めるにはどうしたら良いか、実験の見通しをもち自分の考えを表現させる授業であった。各自が考えた実験方法を、タブレット端末を使ってグループ内でプレゼンテーションし(写真左・中)、その後グループで話し合った実験方法をワークシートにまとめ、大型モニターに映し出してクラス全員の前で発表した。

栃木県 宇都宮大学教育学部附属小学校



校内研究会にて第6学年『水溶液の性質とはたらき』の授業。iPad・電子黒板等のICT機器を効率的に活用し、子ども主体で問題解決ができる授業の展開を行っている。

福岡県 北九州市中学校理科教育研究会



第1学年『物質のすがた』の授業研究。パルミチン酸の固体を加熱する際の温度変化を調べる実験で、センサーを使って測定し、温度が一定になる状態を確かめ、状態変化の粒子モデルでの説明ができることを狙った。当研究会は「北九州市スタンダードカリキュラム」作成に向け、毎年実践事例を積み上げている。

福岡県 福岡市小学校理科研究会



「第61回福岡地区小学校理科教育研究大会」で実施された第4学年『ものの温まり方』の授業。水を一点からあたためるとどのようにあたたまっていくのかを、サーモインクを入れた試験管を一点から温め(写真中)その時の試験管の様子を、シートに描かれた試験管の絵に色を塗って記録し、考察した(写真右)。

福島県 鏡石町立鏡石中学校



第3学年『地球と宇宙』の授業。北極・赤道上・北緯35°にいる人には、北極星と4つの星がどのように動いて見えるかを考察している。iPadのメモ機能を使用し、グループでの議論やクラス全体の共有をした。